

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名	関西学生リーグ戦	期間	平成27年9月5日(土)～6日(日)
開催地	大阪府枚方市	会場	関西外国語大学 体育館
参加者	治田 理知	所属地区名	釧路地区
実践実技1			
日付 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など			
27年9月5日(土)	対戦カード	女子 大阪人間科学大学 vs 関西外国語大学	
副審	治田理知	相手審判	富島氏(AA級)
ゲーム前のカンファレンス内容			
・自分のエリアを責任もって判定することに努める。 ・out of boundsや時間管理等、間違えてはいけないものに注意を払う。 ・得点の差ではなく、最後まで丁寧に判定し続ける。			
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス			
特になし			
ゲーム感想			
今回の道外派遣は、今まで積み上げてきたことを最大限発表してこようと決意して臨んだ。 両チームともに、チームのこだわりややるべきことを最後までしっかりと取り組んでいたこともあり、さまざまなシチュエーションによる判定が多かった。特にreboundについては、仕掛けがoffenseが先かdefenseが先か、それが相手に影響があるのか、cylinderを超えた接触なのか、ballのpositionはどこにあるのかなど、瞬間的な判定にスピード感と正確性が求められた。 試合の締めどころでは、相手審判の予測と判定の速さについていけず、後手に回った時間帯があったことが悔やまれた。よりgameを感じられるアンテナをはり、予測し、それらを正しく判定できるpositioningが必要である。			
実践実技2			
日付 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など			
27年9月6日(日)	対戦カード	女子 武庫川女子大学 vs 関西大学	
副審	治田 理知	相手審判	永山氏(A級)
ゲーム前のカンファレンス内容			
・何も無いことを丁寧に確認をする。 ・自分のエリアに責任を持つ。			
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス			
特になし			
ゲーム感想			
前日の試合において、相手審判の判定についていけず後手に回った時間帯があったことを踏まえ、この試合では「自分らしさ」を出し切って取り組むことに集中して挑んだ。 両チームともにaggressiveで、激しいあたりが多い展開が続いた。中でも、ビッグマンに対する守り方やbox outについては、互いの選手が了解しているplayでもルール上ではfoulである場面があり、自分自身の課題であった「そのくらいだったらいいのでは」という自分基準の甘い考えを払拭することができ、たいへん良い機会であったと感じる。 しかし、前試合の反省点をクリアすることができなかった。試合の流れを感じることはできても、整理の仕方や締め方について、そのスキルと表現力に相手審判と圧倒的に差があった。			
まとめ			
担当を任せられたひとつの試合に対し、真摯に向き合い、誠実に心を込めて取り組むための意識づくりやモチベーションについて、その根底にあるのは「責任」である、ということ再度実感し、深く学んだ。 主審であるとか、副審であるとか、相手のワッペンが何だとかは関係なく、自分自身がひとりの審判員として考えを持ち、自覚と責任を感じ、試合の開始から終了までやり遂げることが、player、bench、audience、そして相手審判から信頼されることにつながるのだと思う。 私は、信頼される審判員になるために活動を続けている。そこへ行きつくための答えは自分で探さなければならぬ。私は、自分で設定した目の高さを変えることなく、努力を惜しまない。 最後に、このような貴重な時間を与えていただいた、関西女子学生リーグ関係者各位、関西女子学生連盟各位、北海道バスケットボール協会各位、釧路地区バスケットボール協会各位、ならびに関係者のみなさまに感謝いたします。この場をお借りしてお礼を申し上げます。			